

夢の翼



H 2 7 . 1 1 . 5 (木) [第 3 9 号]

☆『修学旅行事前指導 11/2』～あと10日です～

2 日 (月) 6 限に全体では最後の修学旅行事前指導が行われました。最初に、保健担当の檜木先生から「修学旅行を元気に過ごすために」健康管理



について。次に、生活指導担当の木内先生から「時間や行動などのルール (規則) をしっかり守ること」について。JTB の市川さんからは、先週の台湾修学旅行添乗をふまえて①暑さ対策や水分補給②持ち物 (機内持ち込みと預け入れ手荷物、折りたたみ傘持参) ③ホテル (ルームキー管理と服装など) についての諸注意がありました。



事前学習担当の大河内先生の「二二八記念館」についてのお話の後は、「ふるさと」の合唱練習でした。みんなで歌おう！



☆台湾学③『技術者八田與一』と『教育者楫取道明』



1910 (明治 43) 年、八田與一は台湾総督府土木課に着任し、約 2 年間浜野弥四郎の部下として上下水道の計画を推進する。「與一は、浜野技師が、上司であり帝大の先輩であることよりも、まだ未開といった時代の台湾に防人のように渡り、生命を賭けて仕事をしてきた人であることに畏敬の念を持った。そして、浜野技師の下で仕事をするうちに、浜野その人の持つ人間性にも魅かれていった。」(台湾を愛した日本人土木技師八田與一の生涯古川勝三著より) 1916 (大正 5) 年頃から浜野のもとを離れ、不毛の大地と呼ばれていた嘉南平原の開発計画を策定し、大圳農業用水工事に専念することになる。嘉南大圳は、台湾最大の嘉南平原農業地帯をつくり出した。八田の業績については、中学生向け教科書『認識台湾 歴史篇』で詳しく紹介されている。【裏面掲載の道徳教材「21 夫、八田與一のこと」を参照。】

また、先日の事前学習で鑑賞した台湾映画『KANO 1931 海の向こうの甲子園』で八田與一を演じていたのが俳優の大沢たかおである。大沢たかおは、現在放送中の NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」で井上真央演じる主人公の久坂美和の義兄 (後に夫) 楫取素彦 (初代群馬県令) を演じている。その楫取の次男である久米次郎 (道明) は、数奇な運命をたどるが、日清戦争直後の台湾で「教育こそ最優先すべき」として、台北の北方に芝山巖学堂という小学校を設立し、日本語を教えていた。楫取は、伯父吉田松陰の生き方に大きな影響を受けていたためか、「死して余栄あり、実に死に甲斐あり」と、死を覚悟して教育に打ち込んでいました。そして、1896 年 (明治 29 年) 1 月 1 日に起こった芝山巖事件で、多数の抗日ゲリラの襲撃を受けて惨殺されたのでした。

【学堂跡の芝山公園と学務官僚遭難之碑 (伊藤博文筆) 】 →



台湾の南西部、台南市に位置する烏山頭ダムのほとりに、日本人土木技師の銅像が座っている。その人の名は八田與一。不毛の大地と呼ばれていた嘉南平原を潤し、大穀倉地帯へと生まれ変わらせた男だ。

この物語は、八田與一に関する資料を基に、八田夫人の視点から独自に書き起こしたものです。



八田與一のこと

女学校を卒業したばかりの私、小村外代樹が、八田與一と結婚したのは大正6年(1917年)のことです。私が16歳、與一が31歳でした。

與一は明治19年(1886年)、石川県金沢市に生まれました。東京帝国大学の工学部土木科を卒業後、台湾總督府の土木部勤務となり、明治43年(1910年)、24歳で台湾に渡ります。

その頃、日本国内では米不足が言われるようになっていました。そこで注目されるようになったのが台湾です。台湾の広大な平原を農地にすれば、米の増産も可能となります。

しかし、台湾一大きな嘉南平原は、乾季には干ばつにより地面がひび割れ、雨季にはたびたび洪水に見舞われる不毛の大地でした。その大平原を肥沃な豊饒の地へと変えるため、與一は大規模ダムの建設を思い立ちます。

烏山頭にダムを造り、さらにトンネルを掘って、山向こうの曾文溪から水を引き込む。そして嘉南平原一帯に、1万6000キロにおよぶ水路を張り巡らせる。與一の計画は壮大で、その規模の大きさを「八田の大風呂敷」と揶揄されることもありました。

私が與一と結婚したのは、そんな時代のことでした。私たちは金沢で式を挙げ、すぐに台湾へと渡りました。

大正9年(1920年)、與一の計画に国の予算が付き、いよいよダム建設が着工となりました。当時アジア最大規模のダムです。

く人たちに新たな就職先を斡旋するため、台湾中を駆け回り回っていたことも、妻の私は知っています。

計画から13年、着工から10年。昭和5年(1930年)に烏山頭ダムが竣工しました^{※1}。與一は白髪も交じる44歳。烏山頭ダムから蘇合とともに躍り出た豊かな水が、嘉南平原の用水路を満たしていくのを見て、與一はどんなに喜んだことでしょう。

事業の完遂を記念して、工事に携わった方々がダム湖のほとりに與一の銅像を建ててくださるというのを、本人は頑なに断っていました。しかし「あなたのためではない、働いていた皆のために作りたい」と言われて折れたようです。與一は、作成にあたって2つのことをお願いしました。

「立派な格好で、高い台の上で威張っているようなものにはしない」
「台の上ではなく、ダムが見下ろせる場所の地面にじかに置く」

湖面を望む場所に設置された銅像は、微笑ましいほどに與一の特徴を捉えています。大地に腰を下ろし、右膝を立て、右手で髪を弄るその姿を、まさか涙に曇る目で見ることになろうとは、そのときの私は想像もしませんでした。

昭和17年(1942年)、太平洋戦争が始まって4か月が経っていました。與一は南方開発派遣要員に選ばれ、広島に向かいました。その任務は、フィリピンでダムや水路を整備すること。與一たち要員を乗せた大洋丸は、広島を出港し、フィリピンへと向かいました。

五島列島を過ぎる頃だったといえます。大洋丸はアメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受け、沈没。與一は遺骨となって私の元に帰りました^{※2}。遺体は流されて、山口県の漁師さんが見つけてくださったそうです。

昭和20年(1945年)、終戦。日本人は台湾を去るよう告げられました。けれど、與一が心血を注いだ、離れがたい烏山頭の地。私はここで、與一

與一はアメリカから土木機械を買い付け、作業の近代化を図りました。スチームショベルにエアダンプカー、ジャイアントポンプ、機関車、コンクリートミキサー。人海戦術が当たり前だった時代ですから、周囲には反対の声も多かったようです。でも與一は、こう言ってそれを鎮めました。

「これだけの工事は、人力だけでは20年たっても完成しない。工事が長引けば、広大な土地は不毛のまま作物を生まない。完成が早ければ、それだけ早く作物を生む。機械は後々別の工事で使える。そして機械を使える人間も育つ。そうすれば日本にも機械を作る会社が生まれる」

機械の購入額だけでトンネル・ダム工事予算のおよそ25%にのぼったと聞き、その決断力に震える思いがしたものです。

與一は常々「よい仕事は安心して働ける環境から生まれる」と唱えていました。「家族といっしょに暮らしてこそ、日々の仕事に打ち込める」として、ダムの建設現場にひとつの街を造りあげたのです。家族みんなで住める宿舎をはじめ、共同浴場、病院、学校、店舗、娯楽クラブ、テニスコート、弓道場、公園などを整備しました。工事にかかわる2,000人ほどがそこに住まい、仕事に励みました。もちろん、私たちも宿舎に入り、與一も毎日のように娯楽クラブに通っては、囲碁や将棋に興じていました。

工事が始まって3年あまりが過ぎた大正12年(1923年)、関東大震災が起きました。台湾からは遠く離れた出来事ではありましたが、その影響はダム工事にまで及びました。

震災復興のため、国費から建設資金にまわす余裕がなくなり、作業員の大規模削減が必要になったのです。労働環境の改善などで、ようやく地元のみなさんと打ち解けることができた、その矢先のことでした。

地元とのつながりが断ち切れてしまうのかと胸を痛めていたとき、與一が「優秀だと評価されている人」から辞めさせたと知りました。「優秀な者の再就職は簡単だけれど、そうでない者はここを去ると仕事がなく生活ができなくなる」というのが與一の理論でした。一方で與一が、辞めてい



烏山頭ダムを造るに先立ち八田與一「台湾の大変革の機」(1924年)に描かれた銅像の原型。銅像は戦時中フィリピンに運ばれたが、戦後返されたが、溶融されることなく奇跡的に地元に残り、台湾の人々によって昭和56年(1981年)まで36年間隠され、守られていた。
写真：石川/PIXTA

とともにありたいと、今、心静かに願うのです。

8人の子どもに恵まれ、夫は偉大な事業を成し、また地元の方々にも愛され、幸せな45年でした。どうか子どもたち皆、兄弟姉妹なかよく。

参考文献：『烏山頭に咲く大輪の花「八田與一」』martin 西田 著/Pubbo
協力：金沢ふるさと偉人館

※1 與一が建設した烏山頭ダムと、網の目のように張り巡らされた水路のおかげで、嘉南平原は台湾最大の穀倉地帯へと生まれ変わった。烏山頭ダムは、アメリカ土木学会が「八田ダム」と命名し、学会誌上で世界に紹介したほどの偉業だった。

※2 毎年、與一の命日である5月8日には人々的に追悼式が行われ、台湾全土から多くの人が参列するという。平成23年(2011年)には、烏山頭ダム入口付近に八田與一記念公園がオープン。資料館をはじめ、ダム建設当時の與一宅や宿舎等が忠実に復元・整備された。また、記念公園横の道路は「八田路」と名付けられている。

『明日への扉』

高等学校道徳読み物教材集より

Thinking time

- ・ 與一はどんな思いでダム建設事業を計画したのでしょうか。
- ・ 現在、與一の銅像は台座の上に据えられています。その理由を考えてみましょう。